

みやぎの多文化な人 宮城県内で活躍している海外出身者をご紹介します。

小学校における 多文化共生の取り組み ～栗原市立高清水小学校～

ケイバー・ジーバさん

アフガニスタン・イスラム共和国出身
栗原市立高清水小学校 6年生

ムハマド・アブドゥランさん

パキスタン・イスラム共和国出身
同 5年生

栗原市立高清水小学校(児童数152名、令和3年度現在)には、アフガニスタン、パキスタン、マレーシアの出身児童が合わせて9名在籍しています。県内には外国籍児童生徒が1、2名在籍している小・中学校は少なくありませんが、仙台市内のいくつかの学校を除けば、このように多くの外国籍児童生徒が通う学校はあまり見られません。今回は、高清水小学校に通う外国籍児童と、その指導をされている先生方にお話を聞きました。

—どこの国から来ましたか。いつ栗原へ来ましたか。

ジーバ アフガニスタンのカブールから来ました。3年前、小学3年生の冬に栗原市へ引っ越して来ました。日本へ来る前は2年半ぐらいパキスタンに住んでいて、現地の小学校へ通っていました。

アブドゥラン 日本で生まれたけど、パキスタンのイスラマバードに住んでいたときもあります。家族と一緒にパキスタンと栗原を行ったり来たりしています。

—栗原と自分の国は何が違いますか。

ジーバ カブールは人も車も多くてうるさいです。栗原は静かです。冬はどちらも寒くて雪が降ります。でも、アフガニスタンは空気が「かたくて」もっと寒いです。

アブドゥラン パキスタンもとてもうるさいです(笑)。おしゃべりの声も大きくてにぎやかです。栗原はパキスタンよりずっと静かです。パキスタンは雪がないです。栗原は雪が降ってすごく寒いけれど、自然がいっぱいあって、きれいな景色や山がたくさん見れるから好きです。パキスタンではクリケットが人気です。でも、栗原の友達ルールをよく知らないみたいです。今は校庭でドッジビーをして遊んでいます。

—高清水小学校に来た時はどんな気持ちでしたか。勉強や生活はどうですか。

ジーバ 3年前、初めて高清水小学校へ来た日はとても緊張していました。日本語が全然わからなくて、話すこともできないし、日本人の気持ちがどうなのかわかりませんでした。1週間ぐらい緊張していました。少しずつわかるようになってきたので、今は楽しいです。勉強は、似ていることばや歴史のことばなどが難しいです。先生に教えて



クラスメイトと (左がアブドゥランさん)

もらって理解できると嬉しくなります。英語の授業は好きです。クラスのみんなが頼ってくれます。学校の生活は、最初の頃は嫌なこともあったけれど、今は落ち込んでいると、友だちが「大丈夫だよ」と言ってくれて、優しくしてくれます。差別されることもありません。先生は「ダメなことはダメ、良いことは良い」と教えてくれます。それに、クラスで係の仕事を手伝ったり、消しゴムを拾ってあげたりすると、いつも「ありがとう」と言ってくれます。

アブドゥラン 僕も入学する前、日本語がわからなかったけど、緊張はあまりしませんでした。友達と遊ぶこと、それから友達や先生と話すのが楽しいです。でも、漢字を書いたり、読んだりするのは難しいです。わからないときは、先生に聞いて教えてもらいます。クラスのみんなも優しく、理科の実験の時も助けてくれました。

—これからどんなことがしたいですか。将来の夢は何ですか。

ジーバ 4月から中学生になります。バドミントン部に入るのが楽しみです。勉強も頑張りたいです。お父さんが、大学に行くことを希望していたのに、そうできなかったことが今でも残念だと話してくれました。お父さんのためにも、私は大学へ入ってお医者さんになれるといいなと思っています。

アブドゥラン 僕はまだ1年あるけど、中学生になるのを楽しみにしています。将来はまだわからないけど、お母さんは「パキスタンの軍隊に入ったらどう」と言ってます。



英語のグループワーク (左奥がジーバさん)

「みやぎの多文化な人」の続き

高清水小学校の蛸名博人校長先生と日本語教育を担当している講師の菅原知子先生と近藤志乃先生(以下敬称略)にお聞きしました。
——高清水小学校の外国籍児童への指導体制について教えてください。

蛸名 高清水小学校では、日本語指導週計画表に基づき、担当教諭や非常勤講師が子どもひとりひとりの日本語の理解度、単元や学習内容に応じて1対1の個別指導をしたり、在籍学級での学習支援をしたりしています。他に週に1時間、日本語学習が必要な児童が集まる日本語クラスがあります。ここでは母国紹介のポスター作り、ドッジビー、工作、かるた遊びなど楽しく活動しています。

——日々子どもたちに接している中で、何か感じていらっしゃることはありますか。

菅原 この小学校で日本語を教え始めて3年目です。学校給食などの食事はもとより、音楽や理科といった教科学習について考え方が大きく異なることがあり、宗教に配慮しつつどう対応すべきか考えることがあります。個別指導のときに、そうした「違い」に困惑していることを打ち明けられたことが何度もあります。母国との学習内容の違いやことばが壁となり、学習の遅れに対して劣等感を持つ子どももいます。英語の授業は学び始めが同時だったので、自信が持てる教科のようです。

近藤 2021年の夏から高清水小で教えています。子どもたちは自分の意志で来日したわけではないにもかかわらず、たくましく頑張っている姿を目にすると私も力が入ります。ただ家庭によっては定期的に長期間帰国する場合があります。そうすると学習の積み上げが難しくなります。また将来の生活拠点が日本なのか母国なのか不透明であるため、学習に対するモチベーションを維持させることが難しく、悩ましく感じることもあります。

菅原 保護者と丁寧にコミュニケーションを重ねることが大切だと考えています。宗教のみならず各家庭の教育に対する考えや生活習慣が違うからです。そこから私たちが気付きを得ることもあります。例えば、児童が体育着の着替えを教室で一斉に行うことについて保護者から難色を示されて、これまでの「あたりまえ」があたりまえではなかったことに気付かされました。また積極的に説明することで理解が得られ、変わることもあります。3年ほど前、学芸会で太鼓をたたくことになったのですが、はじめは人前で披露することはダメだと保護者から了承が得られませんでした。しかしその後、保護者とのやり取りを重ねてお互いの理解を深めた結果、無事演奏を披露することができるようになりました。

近藤 学習発表会では、外国籍児童の出身国をテーマに取り上げて、クラスメイトと一緒に調べて発表していました。また「私もヒジャブ*を着けてみたい」(*イスラム教徒の女性が頭髪などを覆い隠すための布)とか、香辛料の香りたてよう弁当を持参する彼らに「今日はどんなの?おいしいそう!」と興味深げに質問するなど、日常の中に自然な異文化理解があります。こんな風にお互いの違いを理解して受け入れていくことが、世界平和への一歩になるのかなと子どもたちの未来に期待を寄せています。



日本語指導の近藤先生と

「教育現場における イスラム圏児童・生徒の受入に関する事例集」

巻頭頁でもご紹介しているように、近年、社会の多様化が進んでおり、宮城県内の小・中学校で学ぶイスラム圏出身の児童生徒が増えてきています。この事例集は、イスラム圏出身の児童生徒に対し、学校ではどのような配慮を必要としたのか、どのように対応したのかなど、様々な事例を紹介しています。

<https://mia-miyagi.jp/kodomosupo.html#casestudy>

「宮城に暮らすパキスタン人のための 小学校・中学校ガイドブック」

このガイドブックは宮城に暮らすパキスタン人の小学生、中学生そして保護者のために宮城県の小学校、中学校について、また高校受験について説明しています。ウルドゥ語のみの版とウルドゥ語・日本語併記の版の2種類があります。

<https://mia-miyagi.jp/kodomosupo.html#guidebook>

どちらもMIAのホームページで公開しています。
ダウンロードしてご活用ください。

میہاگی پریفیکچر میں مقیم پاکستانیوں کے لیے

پرائمری اور ثانوی اسکول گائیڈ بُک

みやぎ 宮城に暮らすパキスタン人のための

しょうがっこう ちゅうがっこう
小学校・中学校ガイドブック



میہاگی، انٹرنیشنل ایسوسی ایشن

MIA 公益財団法人 宮城県国際化協会
MIYAGI INTERNATIONAL ASSOCIATION



MIA日本語講座 2022年4月から始まります！

MIA日本語講座を開講します。身近に日本語を勉強したい外国人がいいたら、ぜひご紹介ください。多言語（日本語、英語、中国語、韓国語、ベトナム語）のチラシも用意しています。*新型コロナウイルスの感染状況により、中止または延期になる場合があります。

クラス	曜日	時間	期間	テキスト	受講料	定員
初級1 初級2	火～金	10:00～12:00	4月12日(火)～7月22日(金)	『日本語初級1大地』 『日本語初級2大地』	¥22,000 ※テキスト代別	初級1・2 各12人
中級	火・木	13:00～15:00	4月12日(火)～7月21日(木)	『中級へ行こう 日本語の文型と表現55』	¥11,200 ※テキスト代別	12人
夜間初級1 夜間初級2	火	18:30～20:30	4月12日(火)～9月6日(火)	『日本語初級1大地』 『日本語初級2大地』	¥12,000 ※テキスト代別	初級1・2 各12人

●場所：宮城県国際化協会（MIA） ●事前の申し込みが必要です。

MIA国際理解教育支援事業 実施団体を募集しています

MIAでは、地域における国際理解教育の推進を目的として、小中高等学校や生涯教育団体などを対象に、外国人講師との交流機会を提供する「国際理解教育支援事業」を行っています。

2022年度は、「訪問型」と「オンライン型」の二つのプログラムからご選択いただけます。

※新型コロナウイルス感染症の拡大状況に応じて、変更する場合があります

外国人講師のメンバーは、アジア、ヨーロッパ、北米、中南米、アフリカなど様々な国・地域の出身者で、留学生だけでなく多方面で活躍している方々です。みな、子どもたちとの交流を楽しみにしています。

以下は、2021年度にオンライン型で実施した学校からの感想です。

- 普段児童が会える機会のない国の方々にお話しいただきましたので、英語以外の様々な国の言語を知ることができ、様々な発見もあって有意義な時間となりました。(小学校)
- 子どもたちとコミュニケーションをとりながら進めていただいたので、オンラインの画面越しでしたが、講師の先生が近くにいるように感じました。(中学校)

▶詳細についてはMIAホームページをご覧ください。実施に向けてのご相談は、随時承っております。

多文化 なトピック

ベトナム人技能実習生と大学生がオンラインで交流しました ～「オンラインで日本語交流 in 石巻」のご報告～

石巻市地域振興課とMIAとの協働で、市内の企業で働く技能実習生と石巻専修大学の学生がオンラインで交流をする会を設けました。

市内中心部以外で働いている技能実習生は、日本語教室に通ったり、さまざまなイベントに参加したりするのが難しく、残念ながら職場以外で日本人と話す機会が限られています。さらに新型コロナウイルスの影響で外出することに不安を感じることも多くなり、その傾向はより強まっているようです。

そうしたなか、技能実習生に少しでも日本語で話す機会を提供すること、そして日本人側には地域の多文化化について理解を深めてもらうことなどを目的として、技能実習生と地元の大学生がオンラインで会話する機会を設けました。県から委託を受けている「多文化共生のためのコミュニケーション支援業務」の一環として実施されたものです。

技能実習生は仕事が終わった後に寮から、大学生は自分の部屋からそれぞれZoomにアクセス。MIA地域日本語教育アドバイザーの鈴木英子さんの進行のもと、前半はその日のテーマに則した日本語の語彙や表現を学び、後半は小グループに分かれて話をしました。

お互いのことをよく知らないうちに画面越しでコミュニケーションをとることに困難さを感じたこともあったようでしたが、会を重ねるうちに打ち解けていき、技能実習生側から「大学生にバインチュン(旧正月に好んで食べる「ちまき」)を味わってほしいので持っていきたい!!」といった声が聞かれるほどになりました。

この交流は2月でいったん終了となりましたが、新年度も何らかの形で継続したいと考えています。コロナが収束して、直接会って交流できるようになることが待ち望まれますが、移動手段がなく気軽に交流の場に足を運べない人たちも多いことを考えると、オンラインで相互理解を深める機会は、今後も求められるのではないのでしょうか。



河北新報で 「やさしい にほんご ニュース」が読めます

河北新報Online Newsに「みやぎ発 やさしいにほんご ニュース」のコーナーができました。宮城や東北地域のニュースを外国人にも子どもにもわかりやすく紹介しています。週に1度、新しい話題が掲載されます。下記は、このコーナーを立ち上げた上田敬さんと監修協力をしている鈴木英子さんからいただいたコメントです。



外国人の皆さんに、身近で新しい話題に日本語で触れてもらい、もっと宮城や東北のことを好きになってもらいたいと考えました。ウェブで公開した記事から、行ってみたい、見てみたいと思えるものを選びます。当初は「です、ます」に直す程度と考えていたのですが大間違い。語彙だけでなく文法の制約もあります。余計な文章は削り、欠けている情報を付け足すことも。毎回、難題です。社内外から「良い取り組みだね」と言われる場面が増えました。新しい住民である外国人の皆さんにも愛される地方紙になれるよう、努力していきます。(株)河北新報社 編集局コンテンツセンター 上田敬さん

やさしい日本語にユニバーサルなものではなく、減災・医療など、目的に応じてさまざまな工夫が必要です。今回の企画は私にとって、これまでの経験や勘を総括した挑戦であり、まさに毎日が真剣勝負です。常に意識しているのは、初級の日本語学習者が「このニュースを読んで良かった!」と思えること。上田さんはじめ記者の方々が無言で書かれた記事を、私は「わかりやすさ」の視点から、より良きニュースになるよう監修のお手伝いをしています。
(MIA地域日本語教育アドバイザー 鈴木英子さん)

URL <https://kahoku.news/easyjapanese/>

MIAのFacebookとWebサイトをご覧ください



宮城県国際化協会(MIA)のFacebookとWebサイトでは、いろいろな情報をいろいろな言葉で見ることができます。お知り合いの外国人に是非お知らせください。

नेपाली

한국어

Tiếng Việt

English



MIA Facebook

Bahasa Indonesia



MIA Web site

中文 简体字

イラスト: ナギ・カオ [宮城県国際交流員 (CIR)]

サポーターの声

鷹平恵子さん (MIA外国籍の子どもサポーター)



2021年12月から仙台市立八軒中学校のネパール人姉弟に対しオンラインで学習支援をしています。週に1回2時間ほど、生徒ふたりは学校内の部屋から、わたしは自宅からオンライン会議システムに接続します。感染が最も流行していた時期と重なったこともあり、感染リスクを心配せずに活動できたことはとてもありがたかったです。オンラインでの学習支援は対面のときのようにその場でテキストや答えを指し示すことができなかったり、子どもの手元や表情が読み取りにくいといった不便を感じることもたまにあります。一方で、生徒が日本語でうまく言えないことでも画面共有を活用することで一瞬にして理解することができましたし、わたしの発音をうまく聞き取れないでいるときもチャット機能でカバーすることができました。先日、生徒から「期末試験の勉強がしたい」と要望がありました。事前に試験範囲の勉強をしたり、学校の先生にワークブックをスキャンしてメールで送ってもらうなど準備の大切さを実感しました。MIAからパソコン操作のアドバイスを頂きながら徐々にオンラインによる学習サポートの感覚をつかんでいます。

賛助会員募集

MIA(公財)宮城県国際化協会は、県民参加の幅広い国際交流を進め、人と人との輪を広げていくために、皆様の御理解と御協力を求めています。



●賛助会員の資格

本協会の趣旨に賛同し、運営活動に協力していただける個人や団体(国際活動団体、企業、機関)など

●賛助会員の区分と年会費

個人会員/1口 3,000円
団体会員/1口 10,000円

●賛助会員の特典

◎協会機関紙「みやぎの国際情報誌 倶楽部MIA」の
定期送付(年6回)

◎当協会主催のイベントや各種講座の案内及び参加費の減免

◎個人会員については協会と提携する旅行会社が指定する国内外の旅行代金の一部割引

宮城観光サービス(株)

◎企業会員については世界各国国旗の無償貸し出し、及び当協会の外国人スタッフ等による国際理解出前講座の無償提供

●入会方法

◎本協会あて御連絡ください。

所定の申し込み用紙と振り込み用紙を送付いたします。



倶楽部 **MIA** vol.120

編集・発行
公益財団法人 宮城県国際化協会
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号
宮城県仙台合同庁舎7階
TEL 022(275)3796
FAX 022(272)5063

E-mail mail@mia-miyagi.jp URL <https://mia-miyagi.jp>

